

源氏日記

3回

歴史講座

平家物語



すばらしい歌だ。仏さんの歌声は心癒されるなんて言って……しかし仏御前は、そんなことで満足しませんでした。

今をときめく平家の入道相国さまのお召しにあずからないのでは、誰にちやほやされ

たつて、意味が無

いということだ、ある日、西八条清盛の館を訪れます。

しかし清盛は会おうともしません。

「仏だか神だか知らんが、召されてもおらんのにいきなり訪ねてくる者があるか！ 追い返せ！」

と、その時、横から祇王御前が「会ってあげたらよろしいじゃないですか。いきなり訪ねてくるのは遊びものの常です。年も若いのに。追い返したりしたらさぞカッカリするでしょう」

祇王は、自分も白拍子のため、仏御前の気持ちがよく分かります。自信にあふれているようでも、内心すくくビクビクして、追い返されたらどうしよう、変な失敗をして怒らせたらどうしよう、という……祇王は自分がたどってきた道だけに、仏御前の今の気持ちがよくわかります。

「お召しなさい、手言ひなう……、」

「お召しなさい、手言ひなう……、」

「お召しなさい、手言ひなう……、」

「お召しなさい、手言ひなう……、」

「お召しなさい、手言ひなう……、」

「お召しなさい、手言ひなう……、」

「お召しなさい、手言ひなう……、」

「お召しなさい、手言ひなう……、」

「もえ出づるも枯るるも同じ 野辺の草 いつれか秋にあはで果つべき」



「もえ出づるも枯るるも同じ 野辺の草 いつれか秋にあはで果つべき」

「もえ出づるも枯るるも同じ 野辺の草 いつれか秋にあはで果つべき」